

公共事業再評価調書(3回目再評価)

所管課： 道路街路課

1 事業概要	事業名：主要地方道浦添西原線(嘉手苺～小那覇)道路改築事業		前再評価年度：令和元年度	
	事業種別：主要地方道改築事業	事業主体：沖縄県	(H15～R4)	
	事業箇所：西原町	根拠法令：道路法	事業期間：H15～R8	
	(4,409) 総事業費(百万円)：4,720	費用内訳：補助 9/10	事業量：L=1.02Km、W=30.0m	
(整備目的)	浦添西原線は、沖縄本島西海岸の浦添市港川を起点とし、東海岸の西原町小那覇を終点とする約12.8kmの主要地方道であり、ハンゴ道路ネットワークの縦軸幹線道路である国道58号、沖縄自動車道、国道329号を相互に連絡し、交通需要の分散を担う重要な横軸幹線道路である。 このうち、本事業において、西原町嘉手苺の国道329号与那城交差点付近から同町小那覇の国道329号与那原バイパスの交差点までの1.02kmを整備するものであり、現道の交通渋滞の解消と、国道329号与那原バイパスとともに西原町、与那原町の活性化に寄与するものである。			
1-2 前再評価以降の計画変更	事業期間及び事業費の変更			
2 再評価該当項目	<input checked="" type="checkbox"/> ① 再評価後一定期間(5年)を経過 <input type="checkbox"/> ② 事業の中止 <input type="checkbox"/> ③ その他( )			
3 再評価に至った主な要因	<input checked="" type="checkbox"/> ① 用地取得の困難 <input type="checkbox"/> ② 調査・設計の困難 <input type="checkbox"/> ③ 事業の拡大 <input type="checkbox"/> ④ 予算の確保 <input type="checkbox"/> ⑤ 手続き・法令の問題 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥ 他事業との関係 <input type="checkbox"/> ⑦ 整備効果の問題 <input type="checkbox"/> ⑧ 当初計画が長期間 <input type="checkbox"/> ⑨ その他( )			
(具体的理由)	・単価不満等により、用地の取得に時間を要していた区間があり、工事着手が遅れた。 ・本事業区間は、国道329号与那原バイパスや町道等の他事業と取り付くことから、関係機関との協議に時間を要している。			
4 事業の進捗状況	項目	事業費(百万円)	整備(km)	用地取得(千㎡)
	計画	4,720	1.02	31.5
	実施済	4,424	1.00	31.5
	率	94%	98%	100%
4-2 前再評価以降の主な進捗	用地取得及び工事進捗を図った。			
5 事業効果の評価指標	① 走行時間短縮	19,146	① 事業費	4,441
	② 走行経費低減	1,850	② 維持管理費	150
	③ 交通事故減少	150		
	(検計年50年)	総便益	21,146	総費用
(基準年R6)	基準年換算(B)	8,618	基準年換算(C)	7,325
(単位:百万円)	費用便益比 (B/C) = 8,618 / 7,325 = 1.18			
6 事業を巡る状況の変化	① 社会・経済 <ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄都市モノレール延長区間が令和元年10月に開業し、終点駅である「でだこ浦西駅」では、パーク&amp;ライドが併設され、当該駅の1日平均乗客数が令和元年度1,308人/日に対し、令和5年度には2,203人/日に増えている。</li> <li>国道329号与那原バイパス全区间4.2kmのうち、未供用区間の2.2kmが令和4年3月に暫定2車線で供用された。</li> <li>当該事業の終点部に接続する国道329号西原バイパスが令和3年度に事業化されている。</li> <li>西原町及び与那原町にまたがるマリンタウン地区に大型MICE施設の建設が予定され、令和6年6月に事業者選定に係る入札公告を行い、令和11年3月の供用開始に向けて取り組んでいる。</li> </ul>			
	② 地元・自治体： <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度に開催した沖縄振興拡大会議において、当該路線の早期整備の要望があった。</li> </ul>			
	③ 利害関係者： <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度に全ての用地取得を完了した。</li> </ul>			
7 事業の必要性・効率性	① 事業の必要性・緊急性・有効性など： <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業は、ハンゴ道路の一部を形成しており、交通需要の分散を担う重要な幹線道路である。</li> <li>国道329号与那原バイパスや西原バイパスなどの他事業と連携し、交通渋滞の緩和や東海岸地域の産業振興の支援に寄与することから、早期の整備が必要である。</li> </ul>			
	② 事業の効率性(代替案等の可能性やコスト縮減)： <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、用地取得率は、100%に達しており、現計画の推進が効率的である。</li> </ul>			
	③ 事業効果の発現状況： <ul style="list-style-type: none"> <li>供用開始に至っていないため、十分な効果は発現していない。</li> </ul>			
8 今後の対応・見通し	① 事業計画等： 関係機関との協議を速やかに完了させ、予定の事業期間での完了を目指す。			
	② 対住民関係： 令和5年度に用地取得完了した。			
	③ 執行体制等： 現在の体制で取り組む。			
9 対応方針	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業継続(現計画) <input type="checkbox"/> ② 事業継続(見直し) <input type="checkbox"/> ③ 事業の中止			
10 その他	(前再評価での主な意見等) 用地取得に時間を要しているようだが、重要性や公益性の高い事業において、早期に事業効果を発現できるような仕組みについて検討してはどうか。			

\* 1事業概要 の上段( )は前再評価時点の計画